

須坂市教育委員会 8 月定例会 会議録

1 日 時 2022 年 8 月 23 日（火）午後 2 時 00 分 ～午後 4 時 00 分

2 場 所 須坂市消防本部 3 階会議室

3 出席した委員

教育長	小林 雅彦
教育長職務代理者	二ノ宮邦彦
教育委員	土屋 保男
教育委員	水上 智恵
教育委員	山下美知子

4 説明のため出席した職員

教育次長	清水 秀一
学校教育課長	中村 健司
子ども課長	山岸 和美
人権同和教育課長	丸山 絵里
学校給食センター所長	牧 俊彦
文化スポーツ課長	峯村 清一
生涯学習推進課長	寺澤 勝志
須坂市立博物館学芸員	千葉 剛成
主任指導主事	後藤 昭彦
指導主事	宮崎 健
指導主事	北村 雅
指導主事	松木 智子

5 事務局出席職員

庶務係長	小林 貴彦
庶務係	土屋 真由

6 本日の会議に付した事項

1 学校等の状況報告について

2 議 題

議案第 35 号 2023 年度使用 常盤中学校及び須坂支援学校一般図書等の採択について
議案第 36 号 文化財（絵画）の取得に係る答申について

3 協 議

4 一般行政報告

- (1) 教育長出席行事の報告について
- (2) 行事共催等承認の報告について
- (3) 9 月補正予算（案）の概要について
- (4) 2021 年度事業実績並びに主要成果について
- (5) 国名勝米子瀑布群現状変更の許可について
- (6) 新型コロナウイルス発生・対応状況について
- (7) その他

5 その他

- (1) 教育委員会行事予定について
- (2) 須坂市教育委員会主催・共催大会等への出席について
- (3) 日曜祝日「スザカのスサガをさがすバス」実証運行について
- (4) その他

教育長が開会を宣した。

1 学校等の状況報告について

教育長が説明を求めた。

- (1) 主任指導主事が学校等の状況について説明した。
 - ・児童生徒数について、先月比は小学校 2 名減、中学校増減なし。
 - ・事故報告について、小中学校なし、保育園 2 件、児童クラブ 2 件報告あり。
 - ・不登校による欠席状況について、不登校数が小学校 9 人、中学校 39 人。昨年度と比較して、中学校が増加傾向。
 - ・自然体験学習について、小学校では 5 年生で実施。内容は学校毎に異なるが、調理に関する部分は宿泊施設の方に作っていただいたものや、レトルトのカレーを食べる等のコロナ対策をとって実施した学校もあった。キャンプファイヤーは旭ヶ丘小学校と豊洲小学校は合同で実施。
 - ・運動会は、今年度も午前中のみ等、各学校で感染対策をとりながら実施。

- ・修学旅行はコロナの状況を見ながら、小学校は新潟または東京方面、中学校は京都・奈良方面で実施。多くの行事が中止になりコロナに振り回されている学年なので、よい経験になったと思う。
- ・6月に実施したいじめに関する調査のまとめ。小学校 2,407 名、中学校 1,159 名に対して調査。

委員：

- ・子どもたちは修学旅行等のイベントを楽しみにしている。学校の外にでることで気分が変わる。こういったイベントは無くしてはならない。
- ・日野小学校自然体験学習の際、インストラクターの方に深く関わっていただいた。学校の先生以外の外部の色々な方を呼んで利用してもいいのではないかと思った。

委員：

- ・修学旅行について、今まで宿泊体験がずっと実施できていなかったのも、どのような様子だったのかも気になる。他人と泊まったことがない子どもが最近増えているらしい。
- ・学校の先生以外の人たちと出会えるのはよいことだと思う。

委員：

- ・豊洲小学校と旭ヶ丘小学校は合同でキャンプファイヤーをしたことは、面白いことだと思う。2年後には同じ中学で顔を合わせる。他の小学校の生徒と触れ合う機会をもっと考えていければ。

委員：

- ・中学3年生の生徒たちは、入学したときからコロナ禍。中学校の色々な体験が中止等になってしまっていた。修学旅行には行けたのはよかった。
- ・支援学校の色々な取り組みも、とても有難いと思った。

教育長：

- ・いじめ調査について何か意見はないか。

委員：

- ・資料1頁目の、学校が楽しいかという問いについて。楽しいと答えた割合について、学校毎のデータはあるのか。学校毎の変化はあるのか。

主任指導主事：

- ・現在、学校毎での分析はしていない。次回までに分析する。

2 議 題

議案第 35 号 2023 年度使用 常盤中学校及び須坂支援学校一般図書等の採択について

議案第 36 号 文化財（絵画）の取得に係る答申について

教育長からの求めで各課長が説明した。

教育長：

- ・ 絵画取得について、定例教育委員会では審査会の答申を受けて取得について議論したい。
- ・ 8 月いっぱいクラシック美術館にて展示しているので見ていただきたい。

委員：

- ・ 個人美術館や個人作品を展示する場であれば、どのような作品でも構わないと思うが、クラシック美術館は市の美術館であるので、岡氏と須坂市にどのくらいの縁があるのかという点が大事であると思う。
- ・ 岡氏の実績を個人的に調べたが色々なすごいことをやっているのだと思った。
- ・ 本日の資料を見て、須坂市にゆかりのある作家の作品を展示することは、いいことだと思う。
- ・ 今回の三作品の完成年度と、岡氏が何歳のときの作品かお聞きしたい。

文化スポーツ課長：

- ・ 岡氏が現在 90 歳。今回の作品は 88 歳のときの作品なので、2 年前の 2020 年の作品。

委員：

- ・ 資料に記載のある「伝統的な屏風形式の作品を座敷で鑑賞するという展示方法」は面白いと思った。
- ・ 「今後の情操教育に資する」とあるが、どのように活用するのか。「柔らかな感性を持つ子どもたちの学び」とあるが、子どもたちにどのように紹介していくのか。

主任指導主事：

- ・ 本物に触れることは子どもたちにとって大事なことである。特に幼少の頃から小学校～中学校の段階で、西洋のものだけでなく日本の伝統的な本物の作品に触れ、それについてどう感じるかが大事。本物でしか味わえないこともある。
- ・ 須坂市にゆかりのある作家ならなおさら、身近に鑑賞できる機会を提供して、日本画の迫力に何か感じてもらえるのではないかな。
- ・ 値段の話ではなく、子どもたちに是非そういった機会に触れさせてあげたい

と思った。

指導主事：

- ・クラシック美術館にて作品を拝見した。通常的美術館は場の雰囲気がつかめないが、畳の空間で少し段になったスペースに3作品が展示されていて落ち着いた佇まいであった。
- ・ただ見るだけでなく、家屋の中にあることが、岡氏が須坂市の姿勢に感銘を受けたという部分につながってくるのではないか。
- ・それぞれの花の意味を調べていくことも、子どもたちにとって意味のあることなのではと思う。
- ・子どもたちだけでなく、須坂地域を知るという点でも大きく関わっていくのではないか。
- ・岡氏と須坂市の間にどのようなかわりがあったのかという点も、学習につながると思う。
- ・日本画を見る機会は少ない。日本画は岩絵の具を使用している。描き方を学習し、長野市の県立美術館や東山魁夷館と繋げて見ることもできる。
- ・ひとつの作品としてではなく、そこからどう須坂が繋がっていくのか、過去を考えられるのかという点が、これからの感性や豊かな発想を育む。
- ・普通的美術館にあるのとは違い、光であったり佇まいであったり、色々なことを感じる事が大切。

教育長：

- ・日本画は、西洋の遠近法と描き方が異なり、平面的と聞いた。そういった説明を聞くと、見方が変わってくる。
- ・畳の部屋にあり、自然の光の当たり方で違って見える。こういった作品の見せ方を考えていかなければならない。教育委員会として、情操教育という点から、今回の作品だけでなく、今まで須坂にあった作品をどう見せていくのか、大事なテーマであると感じる。

委員：

- ・本物を見るのが大事であると感じた。
- ・クラシック美術館にあるから作品が活きるという展示の仕方を現在しているので、実際に子どもたちがその場所に行くということを、検討するだけでなく実施していく方向で動いてもらいたい。絵を見ることによって、日本画について勉強たり学習が発展していく。
- ・本物を見せたいというのであれば、言葉どおりに子どもたちに見れる機会を作ってほしい。以前の定例会で、本物は長期間展示できないと言っていたが、

その点はどのような対策をして見せるのか、そのようなことも前向きに検討してほしい。

教育長：

- ・現場にも相談しながら進めていかなければならない。

学校教育課長：

- ・答申書にも記載があるが、「入手して終わりとするのではなく、さらに作家研究を行い、岡作品を通じて市の文化を発信」しなければならないという点と、子どもたちの中で見てすぐに何かを感じる子もいれば、どこがどうすばらしいのかを伝えてようやく気付くという子もいる。作品の説明ができる人がいる施設であることが大切であると思う。

教育長：

- ・クラシック美術館の学芸員から話を聞いた。子どもたちが岡氏の絵画を見に来た際、普段子どもたちが使っている絵具と日本画は違うという点を説明したら、子どもたちがどんどん前に来て絵を見ていたといていた。岩絵の具と子どもたちが普段使用している絵具は全く異なるので、その違いや、日本人がどうやって色を作り出してきたのかという点に気づくきっかけになったりと、色々なとことに発展していくことが可能なのではないかと思っている。
- ・須坂市立博物館学芸員にも話を伺いたい。

須坂市立博物館学芸員：

- ・座敷で、夕方や昼間の自然光の中で、子どもたちに何かを感じていただきたいという意見は審査会の中でも出ていた。
- ・美術館は作品を収集し後世に伝えていくのも大きな役割。作品に光を当てるのは劣化の原因になるため、常時展示は厳しいと思う。ただ、何かしら機会を設けながら子どもたちに積極的に見ていただくよう、クラシック美術館学芸員も考えていると思う。

各議題について、それぞれ承認された。

3 協 議

なし

4 一般行政報告

(1) 教育長出席行事の報告について

教育長が主だった出席行事について説明した。

(2) 行事共催等承認の報告について

教育長が説明を求め、学校教育課長が説明した。

- ・共催事業 1 件、後援事業 9 件。内 2 件新規。

(3) 9 月補正予算（案）の概要について

教育長が説明を求め、各課長が説明した。

(4) 2021 年度事業実績並びに主要成果について

教育長が説明を求め、学校教育課長が説明した。

(5) 国名勝米子瀑布群現状変更の許可について

教育長が説明を求め、文化スポーツ課長が説明した。

(6) 新型コロナウイルス発生・対応状況について

教育長が説明を求め、学校教育課長が説明した。

(7) その他

教育長が説明を求め、学校教育課長が説明した。

- ・情報公開制度運用状況の報告について、前回の定例教育委員会の会議録及び資料の情報公開請求あり。資料の個人を特定できる部分を除き、一部公開決定。

5 その他

(1) 教育委員会行事予定について

教育長が説明を求め、各課長が説明した。

(2) 須坂市教育委員会主催・共催大会等への出席について

教育長が説明を求め、学校教育課長が説明した。

(3) 日曜祝日「スザカのサスガをさがすバス」実証運行について

教育長が説明を求め、文化スポーツ課長が説明した。

(4) その他

なし

教育長が閉会を宣した。